



へ 13  
3363  
巻 6

猿

市川團十郎

撰

書市川團十郎

のかる

東京馬鹿者



五

名木石打傳人全巻之六



目録

大正八年九月  
本大學出版部



一 只破百所代殺害好者

并名古尾之木河也

膝ひざ 鳴な

いかよたるるこま

礼れいの巻まき

初はつ鶴つる 煙えん 之の 巻まき 之の 巻まき 之の 巻まき

名木山打傳人全巻一六

ふに びやせき ちやうがひ  
ふ被百冊代殺害の事

ふ 名 寄 月 之 本 討 出 事

鳴な 之の 年とし 之の 阿あ 之の 聖せい

福ふく 之の 友とも 之の 身み 之の 阿あ

田いなか 今いま 之の 田た 之の 地ち 之の 阿あ

物もの 之の 阿あ 之の 田た

まゆのいしりまの 江津の

男女の流流りまの

折のあまのあり

折物 名波流りまの

いかにけまの百折

いしらまの

さぬ山崎の

い稲のまの

小波りまの

せしまの

いしりまの

うまの

海しりまの

あまの

江津の

名波

あり

名波

百折

いしら

さぬ山崎

い稲

小波

せし

いし

うま

海し

あま

うゝあはあ  
院とひまぬきさん  
うら例  
男女十三人  
その中教志  
百姓  
代始  
村中

りらまら  
遊一  
はらら  
と  
色振  
その

幾人たりし事 知まざらん  
河卒解死人小沙行しを  
下さる事 中よりし 則ち  
りれらる天目紀の ころ  
中 の  
心腹を ぬき  
理の ことある ぼりありし

只の 天麻冠の 志  
いよ 財物 財物  
海 船の 舟の 舟  
さし 入る 財物 天下  
百財 中の 國の 財物  
何れ なる 中 小 較 がん  
世の 中 財物 財物

伴りつ事ことはこれまてりは  
しつたた彼かああもも伴た  
た場たつつ切き腹はら  
何なにもも百ひゃく所ところももり  
ああもも後ごももりり後ご討うち  
事ことのの評ひやう定じやうり  
りりとと評ひやう定じやうり  
りりとと評ひやう定じやうり  
りりとと評ひやう定じやうり

伴たりりつつ事ことはこれまてりは  
しつたた彼かああもも伴た  
た場たつつ切き腹はら  
何なにもも百ひゃく所ところももり  
ああもも後ごももりり後ご討うち  
事ことのの評ひやう定じやうり  
りりとと評ひやう定じやうり  
りりとと評ひやう定じやうり  
りりとと評ひやう定じやうり



城こゝろのこゝろ西にしのこゝろりりかか

ささままああのの治ち身みくくるるをを

りりししをを付つけけまましし今いま

ふふいいりりままがが完かん入いりりせせむむりりひひ

みみつつ時ときのの費ひ小こ右みぎのの際さい

りりしし海うみ切き腹はらのの付つ

海うみのの波なみのの勢いきほ

物もののの形かたちをを見みてて

身みのの形かたちをを見みてて

かかのの形かたちをを見みてて

ししのの形かたちをを見みてて

ななのの形かたちをを見みてて

私わたしのの形かたちをを見みてて

いいのの形かたちをを見みてて



山<sup>さん</sup>之<sup>の</sup>柳<sup>りゅう</sup>を<sup>を</sup>情<sup>じやう</sup>何<sup>なに</sup>の<sup>の</sup>み

あ~~~~と~~~~を~~~~留<sup>とど</sup>め~~~~

留<sup>とど</sup>め~~~~け<sup>を</sup>れ~~~~旧<sup>きゆう</sup>友<sup>ゆう</sup>の<sup>の</sup>あ~~~~

む<sup>に</sup>れ~~~~と~~~~伴<sup>ばん</sup>に<sup>の</sup>あ~~~~

竹<sup>たけ</sup>葉<sup>は</sup>も~~~~あ~~~~

い~~~~れ~~~~ま~~~~あ~~~~

ひ~~~~成<sup>なり</sup>守<sup>まも</sup>の<sup>の</sup>ご~~~~

あ~~~~神<sup>かみ</sup>の<sup>の</sup>小<sup>こ</sup>隅<sup>ぐみ</sup>を<sup>を</sup>ほ~~~~

あ~~~~と~~~~を~~~~

の<sup>の</sup>玉<sup>たま</sup>は~~~~は~~~~

か~~~~元<sup>もと</sup>木<sup>き</sup>津<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>り~~~~

和<sup>わ</sup>あ~~~~情<sup>じやう</sup>半<sup>はん</sup>の<sup>の</sup>情<sup>じやう</sup>実<sup>じつ</sup>を<sup>を</sup>

愛<sup>あい</sup>あ~~~~伴<sup>ばん</sup>に<sup>の</sup>あ~~~~

元<sup>もと</sup>持<sup>もち</sup>あ~~~~に~~~~

まあれを何ぞ

いれ 変はれはつあれが

物 一命小くする物

けおのまじやとあはれ

てさるそ 紙は書は

白 つらつら 文は

即ち 文は

志 ぞあま

度あけ 人物の百

打殺されぬ

いへ 海あめ

ま 西は使ふ

り 西は使ふ

し 西は使ふ

親之秋信あきのふたご 之平のへい

之平のへい 秋信あきのふたご 人白ひとしろ

討う 中ちゆう 行ゆ 之の 秋信あきのふたご

中ちゆう 秋信あきのふたご 之平のへい

之平のへい 秋信あきのふたご 之平のへい

之平のへい 秋信あきのふたご 之平のへい

之平のへい 秋信あきのふたご 之平のへい

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

秋信あきのふたご 今いま 秋信あきのふたご

おきくはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて  
しるすはつばしとて

あれたあさんや  
のりあさん  
たのしみ  
けつり  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち

さそ 信実海に心さん

さる新しん

是これま 和わ小こせ

のりんが あれや

か

う命いのち りれむ

信しん 繩なは 中ちゆう りんやま

ま けん

申まう 山さん 中ちゆう りん

いあ 心こころ の新しん

さの 心こころ りん

書かき

いあ

いあ

喜門  
立邊  
利

名本  
朽  
金卷  
云

根  
唐  
西  
苦  
言  
本

本  
屋  
三  
佐  
用  
ナ  
ラ

門  
心  
心  
心

南  
無  
阿  
彌  
陀  
佛  
德  
本  
上  
人

